

提出日：令和 3年 2月 24日
所 属： 獣医 学部 獣医 学科
氏 名： 平 健介 職位： 准教授

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）				
<p>寄生虫病は産業動物獣医療あるいは伴侶動物獣医療等において比較的発生頻度が高く重要性が高い。従って、獣医学科の学生は、特に発生頻度の高い寄生虫病については、診断・治療・予防に関する知識・技術の詳細を卒業までに身につける必要がある。獣医学科学生がこれらを修得するための教育を行うことが、獣医寄生虫学教育者の責任と考える。</p>				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医寄生虫学 I 分担	獣医学科	必修	2	140
獣医寄生虫学 II 分担	獣医学科	必修	3	140
獣医寄生虫学実習	獣医学科	必修	3	140
2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）				
<p>寄生虫病の診断・治療・予防に関する知識・技術の詳細を身につけた学生が、卒業後、産業動物獣医臨床あるいは伴侶動物獣医臨床等において、それらの知識・技術を用いて活躍することは、畜産業の発展および人の心の安定等への貢献を意味する。これらの貢献は、延いては、日本あるいは世界の発展に直結するものと考えられる。</p> <p>なお、教科書等に記載された知識や診断技術について、完成されたものは無く、また、それらの重要性は時間とともに変化する。従って、学生には新しい知識・技術および新しく起こり得る問題に対応できる知識や技術を教授することが必要であると考え。そのためには、獣医寄生虫学教育者が、獣医療現場における寄生虫病の発生状況等および世界各地から発信される寄生虫学に関連する重要な新しい情報を常に把握していなければならないと考える。</p>				
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）				
<p>獣医療現場における寄生虫病の発生状況等および世界各地から発信される寄生虫学に関連する重要な新しい情報を常に把握しておくように心掛けている。具体的には、前者においては国内各所から検体を集めて自分で検査をして寄生虫を観察している。また、臨床獣医師とのネットワーク拡充に常に努め、実習では小動物臨床獣医師および食肉衛生検査技師に特別講師として参加してもらっている。後者については、学術論文講読や国際学会参加などで新しい知識を得ている。</p>				

アクティブラーニングについての取組

例えば、寄生虫の形態および動き知ることが、寄生虫病の診断には重要である。生身（なまみ）の動く寄生虫を獣医療現場から確保し、実習用教材には出来るだけ生身（なまみ）の動く寄生虫教材を用い、自分の目でそれらを学生が観察するようにしている。なお、バイオリスクについては十分に考慮し、安全に実施している。

ICTの教育への活用

例えば、寄生虫の形態および動き知ることが、寄生虫病の診断には重要である。講義などの教材には、静止画だけでなく出来るだけ動画を用いるようにしている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

① 教育（授業、実習）の創意工夫：B（A～C）

② 学生の理解度の把握：B（A～C）

③ 学生の自学自習を促すための工夫：B（A～C）

④ 学生とのコミュニケーション（質問への対応等）：A（A～C）

⑤ 双方向授業への工夫：A（A～C）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥ 国家試験対策として、近年の出題傾向を分析して重要性の高い項目を特定した。

5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

学生からの要望に、可能な限り、適うようにした。

② ①の結果はどうでしたか。

概して改善できたと思われるが、次年に同様の要望を受けることもあった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

学生からの要望は、可能な限り反映させたいと、常に真摯に考える。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

楽しく学んでもらいたいと常に思う。生身（なまみ）の動く寄生虫を獣医療現場から確保し、実習用教材には出来るだけ生身（なまみ）の動く寄生虫教材を用い、自分の目でそれらを学生が見つげ出し、観察するようにしている。動く寄生虫を自分で見つけた時の学生の目は輝いている。

(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価
特になし

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)

FD 研究会には参加した。しかし、完全に理解できなかった。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

寄生虫病は産業動物獣医療あるいは伴侶動物獣医療等において比較的発生頻度が高く重要性が高い。従って、国家試験出題数も寄生虫学関連問題は比較的多い。今後の目標として、国家試験における麻布大学の受験生の、寄生虫学関連問題の正答率を上げることが掲げたい。具体的には、獣医師国家試験における寄生虫学関連問題の 80%程度は正答させることを目標としたい。なお、獣医師国家試験における寄生虫学関連問題の正答率を知る方法については検討中である。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ